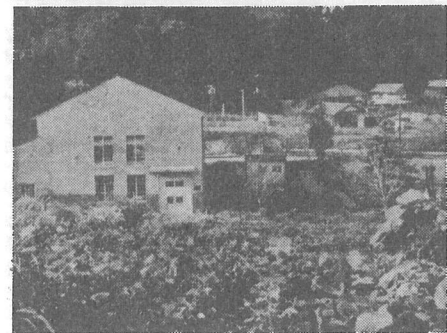


十年一昔 (その十)

小堤用水機場境界

両総用水第二機場——小堤の振子坂から二つに岐れた県道の間に抱かれた様に見える揚水機場は、田圃の中を栗山川まで一直線に截って続く導水路と共に近隣町村の学校等から見学に来る程有名です。現在では、海匠、香取、山武、長生等十八市町村、二、七四八、一五町歩耕地の灌漑用水の中心揚水機場として華やかにクローズアップしています。しかし、この事業所建設の陰には附近に点在する和田地区の皆さんが示した大らかな妥協と理解があったことを忘れてはなりません。此の揚水機場の着工は昭和二十六年九月十九日、九十九里一帯は三年に一度



しか米が穫れない、これを教うのは灌漑用水の完備だ」と私財を投げ打って努力されておりましたが、その揚水機場になるというのですから「これは買収される者だけの問題ではない、部落皆で協力しよう、買収された用地の代替を戸毎に提供しよう」ということ等も定めたものです。また、それまでは溜池から引いていた水も使えなくなってしまうのですから、汲揚ポンプで用水路から取水しなければなりません。交付で不養番をするのですが水の必要なのは田植時ですから昼間も休めません、生身の体には堪えられない辛さです。始めの中は関係筋に陳情したりしたこともありますが、そのうちにいろいろ心配して下さった工事課長の貝原さんが殉職なさるといふ不幸な事故が有ったりしまして、それを痛む、という気持ちもあったのでしようか、何となくそのままになってしまいました。『応急処置』という関係筋からの話もありましたが未だに取水時期の不養番は続いています。しかし、戸井田県議さんや、逝くなられた貝原さんのことを想うと九十九里沿岸十八ヶ市町村が潤うための中樞機場となったというところで満足しているというのでしよう。』と大要をそんな風に話しておられ

ました。着工以来二十年、此の用水によって耕地の反収も年毎に増加していると思えます。過ぎた歳月の悲喜交々を秘めたまま、両総用水大総第二揚水機場は、たまたまの変わった公民館だより

公民館だより

図書貸出し始まる

読書をするのに一番良い季節です。町民の皆様は読書を楽しんで頂くよう、公民館では県立中央図書館から年間千冊に及ぶ図書の配本を受けることになりました。そのうち五百冊が十月十六日配本になり、愛読者への貸出しを始めました。この図書を借りたい方は図書貸出券交付申込書(公民館にあり)で申し込みをし、貸出券の交付を受けて図書を利用して下さい。交付を受けた図書貸出券があれば、何度でも借りられます。貸出し期間の一週間、読み終わらなかつた場合は手続きをして更に延長することもできます。尚、図書利用者が多ければ県立図書館からどしどし新刊書が配本され、また、公民館でも多くの図書を購入することができるようになります。

趣味のグループ

会員募集

中央公民館では、公民館活動の一環として、つぎのような趣味のグループの会員を募集します。加入を希望される方は公民館の事務室までお申し込み下さい。

一、読書クラブ

公民館図書の貸出しを開始しましたので、これを契機に読書クラブを作り月一回、読書会などを開いて、大いに読書に親しんでいただきたいと考え、読書に興味をお持ちの方の加入をお待ちいたします。

二、写真クラブ

近年カメラの性能の進歩とともに非常にカメラが普及し、各家庭に一台はお持ちになっているようですが、なかなか良い写真を楽しむことは難しいようです。

そこで、写真クラブをつくりお互いに写真技術を大いに研鑽していただきたいと思ひますので、写真に興味をお持ちの方は是非参加して下さい。

三、音楽同好会

最近ステレオ等音響器具の普及によって、音楽に親しまれる方が非常に多くなっておりますので、音楽愛好者の会をつくり、レコードコンサートや音楽鑑賞会などを開き大いに趣味を深めたいと思ひますので、愛好家の皆様の参加をお願いします。

講座紹介

趣味の園芸教室

講座のトップを切って、去る九月二十五日開講された趣味の園芸教室は、講師に、もと旭農校教諭深山隆先生を招き、受講生三十五名が参加、第一回は秋播き草花の栽培、第二回は、秋植球根の繁殖と植付、第三回は、庭木の挿木技術、第四回は、庭木、花木の接木技術などの実用的な講義をうけて、各家庭実習をして楽しんでおります。これから先の学習計画は、菊作りや盆栽仕立て、観葉植物の冬越しの方法などが組まれており、受講生一同張切つて勉強しています。出席率も毎回八十五パーセントを上廻る好成績です。また、十一月には園芸センターの視察なども計画されているようです。